

金子 熊夫

かねこ・くまお一外交評論家、エネルギー戦略研究会会長、EIEE会議代表。元外交官、元東海大学教授。ハーバード法科大学院卒。kaneko@hyper.ocn.ne.jp.http://www.eecom.org



10年前のあの日、テレビ画面に映るワイルド・トレード・セントアイビルに大型ジェット機が突っ込むシーンは、今まで見たどの映画よりも衝撃的であった。最初は誰の仕業が見当もつかなかったが、テロ攻撃らしいと知らされた瞬間的に私の頭に浮かんだのは、サミュエル・ハンティントン

の言う「諸文明の衝突」であった。数時間後に、インターネット上で、クリントン前大統領のコメントなるものが入った。ニューヨークの自宅近くの教会が何かの集会で行った即席のスピーチのようだったが、「これは国際社会における米国の傲慢な態度を引き起こしたものと受け止めるべきだ」という趣旨だったように記憶して

時評

ウエーブ

2011.9.21

9・11と3・11——文明論的考察

叫んだ途端に、全米の雰囲気が一変し、テロに負けるな。報復に立ち上がろう。イスラム過激派討つべし」という声が熱病のように広がった。いたるところで星条旗が打ち振られ、市民たちは「USA」を連呼して国への忠誠を誓うなど、ナショナリティックなムードが異常に高揚した。とてもではないが、なぜ米国はテロ

攻撃に遭うのか、米国の対外政策に根本的に反省すべき点があるのではないかと等という理性的な意見を言えるような状況ではなくなつた。クリントンも二度とあのよう

なコメントはしなくなった。念のため前夜の彼のコメントを再確認しようとしたが、削除されたらしく見当たらなかった。爾来、ブッシュ政権の「ネオコ

ン」が先頭に立って米国を対テロ戦争に駆り立てて行った。彼等が始めたイラク戦争は一応終わったが、代わってオバマ大統領が新たに拡大したアフガニスタン戦争は未だに続いており、泥沼化している。戦費による財政赤字も甚大だ。現実主義者のオバマはすでに、この戦争は割に合わない戦争であることに気づいているはずだが、こ

ころが、一夜明けて、ブッシュ大統領が「これは戦争だ」と

ここで中途半端に撤退すれば、テロに屈したとみられ、非難を浴びる。来年の大統領再選にも響く。世界最強を自任する国の指導者のシレンマである。

翻って、日本の3・11大震災、とりわけ東電福島第一原子力発電所事故について。文字通り未曾有の重大事故で、半年後の現在も終息の見通しは立っていない。福島県

小国にとって必要不可欠だ。今回事故の惨状に怯まず、むしろその教訓を生かして一層安全な、世界一強靱な原子力発電所の構築に全力を尽くすべきだ。原子力抜きでは、日本の経済力は益々衰え、激化する国際競争の中で落伍する傾れがある」と等という意見は言いにくい空気がある。下手をすると経産省や電力会社の「御用学者」の烙印を押されかねない。マスコミもそのような寄稿は忌避しがちだ。

勿論、9・11と3・11とは単純に比較して論ぜられないが、事件(事故)後の政府や一般市民の反応ぶりには、ある種の類似点があるように思われてならない。感情的に流されるか、理性的に踏みとどまるか。こゝは、大袈裟な言い方かもしれないが、文明論的な観点からも冷静に考えるべき時ではないだろうか。